

令和 2年 2月

橘田勇紀 学位論文審査要旨

主 査 永 島 英 樹
副主査 萩 野 浩
同 中 條 雅 美

主論文

Effectiveness of ultrasonographic skeletal muscle assessment in patients after total knee arthroplasty

(人工膝関節全置換術後患者における超音波診断装置を用いた骨格筋評価の有用性)

(著者：橘田勇紀、谷村千華、井上和興、朴大昊、尾崎まり、萩野浩)

令和元年 Osteoporosis and Sarcopenia 5巻 94頁～101頁

参考論文

1. 回復期リハビリテーション病棟に入院した脳卒中片麻痺患者の骨量と関連因子についての横断的研究

(著者：橘田勇紀、松本浩実、萩野浩)

平成30年 The Journal of Japan Osteoporosis Society 4巻 565頁～574頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は人工膝関節全置換術（TKA）後患者を対象に、超音波診断装置を用いて骨格筋評価を行い、術後の運動機能との関連を検討し、その評価方法の有用性を検討したものである。その結果、TKA後患者において骨格筋量の減少と筋内脂肪の増大が認められ、また超音波診断装置で評価した骨格筋の状態が術後の運動機能と関連を示すことが明らかとなった。本論文の内容は、TKA後患者における骨格筋評価の必要性と、その評価法として超音波診断装置が有用である可能性を示しており、運動器リハビリテーション分野で明らかに学術水準を高めたものと認める。